

研究分野のキーワード：仲間関係、いじめ、ネットいじめ、もったいない感情

研究紹介

私がこれまでに実施してきた研究には、いくつかのテーマがあります。テーマごとに紹介します。

1. 小・中学生の仲間関係に関する研究

小学校高学年から中学校にかけての時期を前青年期と呼びます。前青年期の仲間関係の特徴は、男子で6~7人、女子では3~4人の気の合ったメンバーと仲間集団を形成します。このメンバーとは、休み時間を一緒に過ごしたり、休日に遊んだりします。仲間同士による相互作用によって、社会性が発達することや、楽しい学校生活を送れることは大変望ましいことです。しかし、一方ではグループができ、それ以外の人との関係が希薄になってくると、学級としてのまとまりがなくなってくるという問題があります。また、他のグループのメンバーに対して好意的にみられない場合は、グループ間の対立に発展する恐れもあります。このように仲間集団がもつ負の側面について研究しています。

2. いじめ、ネットいじめに関する研究

文部科学省が実施している「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」においても、現在なお多くのいじめが報告されています。加害者にしないために、被害者にしないために、教師やいじめに周辺的にかかわる子どもがいじめを止められるために、何が必要で、そのために学校ではどのような教育を行わなければならないかを明らかにしようとしています。また、携帯電話、スマートフォン、パーソナルコンピュータの普及により「ネットいじめ」と呼ばれるいじめもみられるようになりました。教師からは発見しにくいとされている「ネットいじめ」についても、従来型のいじめに加えて研究しています。

3. もったいない感情に関する研究

大切なものを割ってしまったり、あとで交換しようと思っていた当たりくじを交換し忘れてしまったりした時など、人は「もったいない」と感じます。社会が豊かになり、モノが溢れてくると、モノとの付き合い方を考えなければなりません。大量生産、大量消費の社会では、経済こそ健全ですが、地球環境においてはそれが望ましい形とは必ずしもいえません。モノと向き合う心理の解明が今後ますます重要になってくると思います。もったいない感情の研究はモノと向き合う心理学の1つと位置付けることができます。何歳頃からもったいないと感ぜられるようになるのか、どのようなことが原因でもったいないと感じやすい性格になるのか、文化的な違いはあるのか、など様々な視点からアプローチしたいと思っています。